

関西英語教育学会 2016 年度（第 21 回）研究大会 プログラム概要

11 日 14:30~15:50 講演

「クリティカル・リーディングで迫る、深い英文の理解」

講師 卯城 祐司（筑波大学）

英文を読めたつもりを感じても、深い質問が出ると途端にわからなくなってしまうことがある。また英文情報をより多く頭に入れることが、必ずしも理解につながらないのは何故だろうか。私たちは、読み進める毎に英文情報に合わせて内容理解を修正することが苦手だと言われている。読解後に、「最も当てはまるものは」という問いに答えることも不得手である。心的表象における状況モデルにもふれながら、クリティカル・リーディングを通して深い読みの世界に迫りたい。



関西英語教育学会 2016 年度（第 21 回）研究大会 プログラム概要

11 日 13:00～14:20 企画ワークショップ

第 1 室

「中学英語教科書のアクティビティーを考えるー教科書の役割，教師の役割ー」

奥住 桂（埼玉県宮代町立前原中学校）

新学習指導要領のスタートに合わせて，検定教科書もそれぞれ改訂されました。中学校版では，リーディングのための英文だけでなく，リスニングやスピーキングのアクティビティー用素材が紙面の半分くらいを埋めている教科書がほとんどです。

4 技能を「総合的」に，という意味ではバランスが配慮されているように思いますが，一つ一つのアクティビティーを見ると，同じ文法を使っていること以外にはつながりがなく，「統合的」と呼ぶには程遠いのが現状です。

アクティビティーが増えたことで，教科書の扱いに戸惑いを覚えている中学校教師もいると思います。また，教師こそがこういったアクティビティーを考案すべきでは，という議論もあるかと思えます。

このワークショップを通して，教科書の在り方や教師の役割などを考えていただく機会になればと考えています。



関西英語教育学会 2016 年度（第 21 回）研究大会 プログラム概要

11 日 13:00~14:25 企画ワークショップ

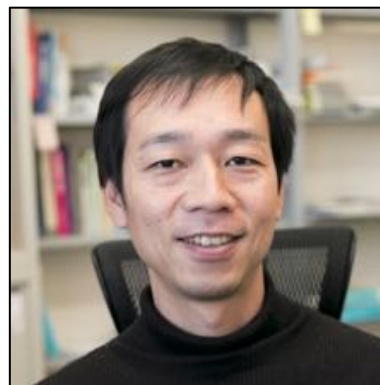
第 2 室

「音読のバリエーションに応じた音声編集」

菅井 康佑（近畿大学）

外国語習得における音読の効果は、様々な研究により立証されています。しかし、音読と一言と言っても様々な種類があり、学習者の習熟度やつまづいている段階に応じて適切な音読を行うことでより大きな効果が期待できます。音読に用いる素材についても音読の種類に応じて適切なものを用いることが重要だと考えられます。

本ワークショップでは、主にリスニングの側面から学習者のつまづいている段階に即した音読について考え、またそれぞれの音読に適切な素材作りのための音声編集をご紹介します。なお、本ワークショップでは無料の音声編集ソフト audacity を用いて実際に音声編集を試して頂くので、予めソフトをインストールしていただいたラップトップおよびヘッドフォン等をご持参の上ご参加下さい。



関西英語教育学会 2016 年度（第 21 回）研究大会 プログラム概要

11 日 16:40~18:00 イブニングセミナー

第 1 室

「教師生活 40 年を振り返る」

村田 純一（神戸市外国語大学）

教育者として 2 流，研究者として 3 流の，そんな私が，4 年前，恐れ多くも，関西英語教育学会の会長になってしまい，ただひたすら目立たないロゴマークのような存在として，この間すごして来たのですが，とうとう最後に会長講演で締めくくることになってしまいました。

「公園」と縁のある私ですが，「講演」はちょっと。実はこう見えても人前で話すのは下手で，嫌いですので，決して期待などしないでください。全国会長の卯城先生が常に前向きの人物であれば，私はかなり後ろ向きで，つまらない話になると思います。それでもそれなりに，「外国語学習の目的」，「(失敗におわりそうな) 英語の習得のための個人史」，「日本の英語教育は改善しているか」，“uncool Japan”，“Arima Underwear Mystery”，「日本人とは」，“It’s just a job” など，とりとめなく，時間のゆるすかぎり，本音トークをさせていただければと考えてます。途中で質問，妨害その他，どうぞ遠慮なく。



関西英語教育学会 2016 年度（第 21 回）研究大会 プログラム概要

11 日 16:40～18:00 イブニングセミナー

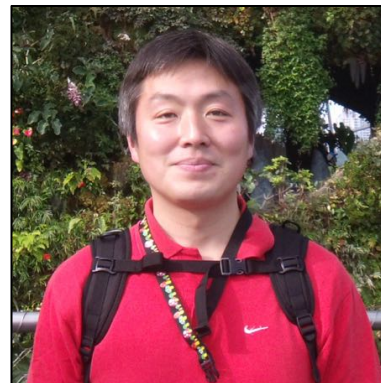
第 2 室

「汎用的教材研究術」

山岡 大基（広島大学附属中・高等学校）

教材研究においては、個別的な教材内容と普遍的な教科内容の両面に着目することが重要です。つまり、他にもない、その教材を扱うからこそ問題になってくる事項と、その一方で、どの教材を扱う場合でも、ある程度共通して問題になってくる事項の両方を視野に入れ、1つの授業へとまとめていくことが求められます。しかし、教育実習生やキャリアの浅い教員の場合、えてして教材研究の対象が教材内容に偏りがちであり、そのことが、継続性・一貫性のある指導を阻んでいるケースがあります。また、教材研究の成果としての発問に着目すると、ベテラン教員でも教材内容に引きずられた発問に偏りがちな場合があるようです。

本セミナーでは、「教材内容と教科内容の峻別」を軸に、特に教科内容に着目した汎用性のある教材研究術や「形式発問」の重要性について提案します。



関西英語教育学会 2016 年度（第 21 回）研究大会 プログラム概要

12 日 11:00~12:20 ブランチ・セッション

第 1 室

「生徒の英語力の向上を妨げる指導 vs. 生徒の英語力の向上を促進する指導」

鈴木 寿一（京都外国語大学）

今、英語教員には、実際に使える英語力と入試に対応できる英語力を生徒に身につけさせることが求められています。両者は、決して別物ではないのですが、別物だと思っている人が非常に多く、英語教員でさえ、たとえば、「入試で英文和訳問題が出題される限り、日頃の指導や学習で英文を和訳することが不可欠である」とか、

「使える英語力を伸ばす指導や学習をしても、入試に対応できない」というように思っている人が多いのが実情です。その対策として、生徒にとって必要ないことまでさせる不適切な指導が行われています。

本セミナーでは、まず、一般に行われている効果的でない指導をいくつか取り上げ、そのような不適切な指導が行われている原因を考えたあと、これまでの研究と実践の成果に基づいて、それらの指導のどこに問題があるのかを明らかにし、それに変わる、効果が実証されている適切な指導を提案します。



関西英語教育学会 2016 年度（第 21 回）研究大会 プログラム概要

12 日 11:00~12:20 ブランチ・セッション

第 2 室

「脳機能画像解析法と英語教育研究：fMRI でできること」

大嶋 秀樹（滋賀大学）

人前で喋るのが苦手なのに英語教育に携わってきた身で、なるべく人前にでず目立たないようにしてきましたが、本年度の研究大会では、とうとう自分がみなさんにお話をするというお鉢がまわってきました。

英語教育、発音・音声指導、fMRI による脳科学的手法での言語習得研究とてんでばらばらの研究者ですが、ずっと関心を持ってきたのは「ことば」の能力、特にことばの使用に係わる能力とその習得についてです。英語教育では主に教室場面でのことばの使用能力の習得に、発音・音声指導では、ことばの使用能力の 1 つである発音・音声能力の習得に、fMRI による言語習得研究では、ことばの理解能力に関心を寄せてきました。

今回、そのひとつ、fMRI による脳科学的手法での言語習得研究について、fMRI の仕組み、研究方法といったややテクニカルな部分にも触れ、英語教育・言語習得研究でどんな研究が可能なのか、その可能性について最近の研究状況も紹介しながらお話をいたします。



関西英語教育学会 2016 年度（第 21 回）研究大会 プログラム概要

12 日 15:25~16:45 シンポジウム

「学校において学習者オートノミーを促進する授業を考える」

「教師の役割と授業を再考する—学習者オートノミーの視点から—」

コーディネーター・発表者 中田 賀之（同志社大学）

「学習者オートノミーはどのような状況で培われるのか」

発表者 棟安 都代子（兵庫県立加古川東高等学校）

「グローバルスタディーズ（SGH 教科横断型科目）における CLIL 実践の試み」

発表者 村上 ひろ子（神戸市立葺合高等学校）

指定討論者 玉井 健（神戸市立外国語大学）



自律性の重要性が繰り返し指摘される中、大学レベルでは学習者オートノミーを促進する多くの試みが紹介され、中学校や高校でもある程度その重要性は認識され、このテーマの発表も見られるようになった。しかし、「学習者オートノミーがどのようなものなのか」「どのような実践が学習者オートノミーの促進に繋がっているのか」については十分に整理されていない現状がある。学習者オートノミーを促進しようと思図しなくても、その用語を知らなくても有効な実践をしていることもあるだろう。

本シンポジウムの目的は、学校現場における学習者オートノミーの意味を考え、日頃の実践の中に学習者オートノミーの促進のありようを見出そうとすることにある。学校文脈において学習者オートノミーを伸ばすための理論を紹介しつつ、学校現場での実際の実践を紹介し、聴衆の皆さんと一緒に「学習者オートノミーを促進する英語授業」について考える機会としたい。